

厚岸湖・別寒辺牛地域は、野鳥の豊富な塩湿地を伴う海岸湖沼と、高層湿原を含む原生の湿性草原、さらにそれらを取り囲む広大な樹林よりなり、第一級の自然環境を誇っている。この内陸の豊かな自然環境と対をなすように、千島海流がうねる雄大な太平洋が切り立った断崖を洗い、沖合いの大黒島には巨大な海鳥のコロニーやアザラシの休息場所がある。これらの自然資源は、現在急速にマーケットが拡大しているエコツーリズムの優れた対象となる潜在性を有している。

釧路国際ウェットランドセンター技術委員会（1996）は、道東の釧路湿原、厚岸湖、別寒辺牛湿原、霧多布湿原におけるエコツーリズムの必要性を指摘している。そのうち、厚岸湖、別寒辺牛湿原におけるエコツーリズムの対象として、それぞれ、カヌーによる水面からの湿地観察体験、バードウォッチングと伝統漁法についての学習を上げている。別寒辺牛湿原については、エコツアーについての基礎も、そのようなツアーをサポートする上での経験が不足しており、次のようなことが必要であるとしている。すなわち、エコツーリズムとして潜在的に利用可能な場所の探索、最小限の施設・設備の設置、そのような設置によって与える環境へのインパクトの調査である。

この指摘から7、8年が経過した。1995年に、別寒辺牛川の支流である大別川のほとり、厚岸湖を遠望する位置に設置された厚岸水鳥観察館は、エコツーリズムの拠点としての機能を充実しつつあるし、別寒辺牛川におけるカヌー下りもほぼ同様の年数の実績を積み重ねている。しかし、エコツアーには、エコツーリストの要求に答え得る知識と技術をもったガイドが必要であるし、ツーリストが満足するコース設定、アクティビティー内容、それに付随する宿泊や交通、ショッピングなどの施設も整備されなければ、これだけの自然資源に見合ったエコツアーが成立しえない。

そこで本研究では、厚岸湖・別寒辺牛地域におけるエコツーリズムのための潜在資源を調査によって浮き彫りにするとともに、それらの場所を利用したエコツアーにおけるガイドの解説内容・アクティビティーなどについて提案を行なうとともに、エコツアー実施が自然環境に与えるプラスの面とマイナスの面を定性的に予測し、更にはエコツーリズムが厚岸町に与える生活経済上の影響についても定性的に予測することを目的とした。